

「確かな学力を育む学習指導の在り方」

～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習の工夫～

I 主題設定の理由

勝沼中では、ユニバーサルデザイン（UD）の視点を取り入れた学習指導について取り組んだ。「UDの視点」とは、発達障害またはその傾向をもつ生徒への配慮だけでなく、すべての子ども達に対する合理的な配慮を指導の中に取り入れていくことを示している。例えば黒板の近くに掲示物を貼らないことやチョークを見えやすい色（白と黄色を主とする）を使用することにより、すべての子どもが授業に集中できる環境を準備することがあげられる。また、UDの一環として授業の構造化にも取り組んでいる。授業のはじめに「めあて」、展開の部分で「ポイント」、 「終わり」の部分で「まとめ」を掲示し、授業のゴールや流れを視覚化している。他にも基礎・基本の定着のために、小テストや単元テストをすべての教科で行い授業改善に役立てている。3年生については、3学期に朝読書の時間（15分間）を使い、5教科の基礎基本の問題を解かせる時間（できるドリルタイム）を設定した。また、授業規律の質的向上のために、生徒会が中心となって授業評価シートを活用しコンクール形式にして工夫するなど、活発な取り組みを行っている。また、校内研究会の中で「学び愛」という時間をつくり、学級・部活動指導に秀でた教員に話をしてもらい、お互いに学び合うことができた。

今年度は昨年度から実践していることを継続して行うことに新たな視点を加え、より質的な向上を目指していった。理論的なことは、主に市のプロジェクトで学習し、校内研究では実践の場として理論と実践を一体化させながら研究を進めていった。今後も子どもたちのために、市のプロジェクトや校内研究で学んだことをいかしながら、教師としてのスキルをアップデートして教育活動に励んでいきたい。

II 研究の具体的内容と方法

(1) 授業づくり、授業改善に関わって

- ア ユニバーサルデザインを意識した学習環境づくり（掲示物やチョークの色等）
- イ 単元テストや小テストによる指導改善，一人一実践
- ウ NRT検査や全国学力学習状況調査，県学力把握調査の分析及び改善
- エ 授業の構造化及び朝読書（朝学習）の実施，「ティーチャーズノート」の活用

(2) 学級づくり，集団づくりに関わって

- ア 授業評価シートを活用し，授業規律の質的向上
- イ QUを実施し，K-13法での分析・活用及び「ティーチャーズノート」の活用
- ウ 平和教育の実施（わだつみ平和文庫見学），帰りの会でのスピーチの実施

【研究授業の実施】上記の（１）と（２）をふまえ、研究授業を行った。

２学年 理科 単元名「イカの解剖」 廣瀬 直樹 教諭

２学年 道徳 主題名「性別を乗り越えて」 廣瀬 直樹 教諭

（３）家庭学習の習慣化に関わって

ア 定期試験前の「学び舎タイム」の実施

イ 基礎基本の定着を目指す「できるドリルタイム」の実施

ウ 甲州市「学習の手引き」「家庭教育・子育てQ&A」の活用

Ⅲ 成果と課題

「授業づくり、授業改善」「学級づくり、集団づくり」「家庭学習の習慣化」の３つの柱を立て、具体的な取り組みを行った。

授業づくりにおいては、NRT検査や全国学力学習状況調査、県学力把握調査の分析を行い、学校全体で課題を見つける中で授業改善に取り組んだ。また、単元テストや小テストを頻繁に行うことで、課題を早期に見つけ改善に取り組んだ。また、見直し振り返り学習の一環として「めあて」と「ポイント」、「まとめ」を黒板に提示し、授業の流れや重要事項をすべての教科で明確に示すことができた。授業により集中できる環境づくりとして、黒板の近くに掲示物を一切貼らないようにしたり、チョークの色の使い方を全校で統一して取り組むことができた。

学級づくりにおいては、授業規律の均等化を目指し授業評価シートを活用して、毎時間、授業規律の向上を図ることができた。授業評価シートについては、生徒会の自主的な活動として位置づけるなど、活用の仕方に工夫が見られ取り組みの幅が広がった。また、「hyper-QU アンケート」を実施し、K-13法で学年毎に分析を行い、改善の仕方考えることでチームとして指導を行うことができた。その他にも朝の会でスピーチを入れたり、また読書への興味や関心を高めるために読書集会を行った。

家庭学習の習慣化においては、「できるドリルタイム」という時間を設定し、今年度は３年生のみ３学期に実施し、基礎基本の学力の向上を行った。この時間は、朝読書の中で５教科の基本的な問題を解き、時間になったら担任がチェックするという活動である。１、２年生の復習をすることで今の課題がわかり、家庭での学習につなげるという習慣づくりができた。

来年度もこれらの質を更に高めると共に、ICTを使うなどしてすべての生徒がわかる授業づくりを目指し、確かな学力を育成していきたい。

（終わりに）

今後も生徒の実態に合わせた取り組みを展開していくことにより、自ら考え、豊かに表現できる生徒の育成へとつなげていきたい。

（研究主任 天野秀太郎）